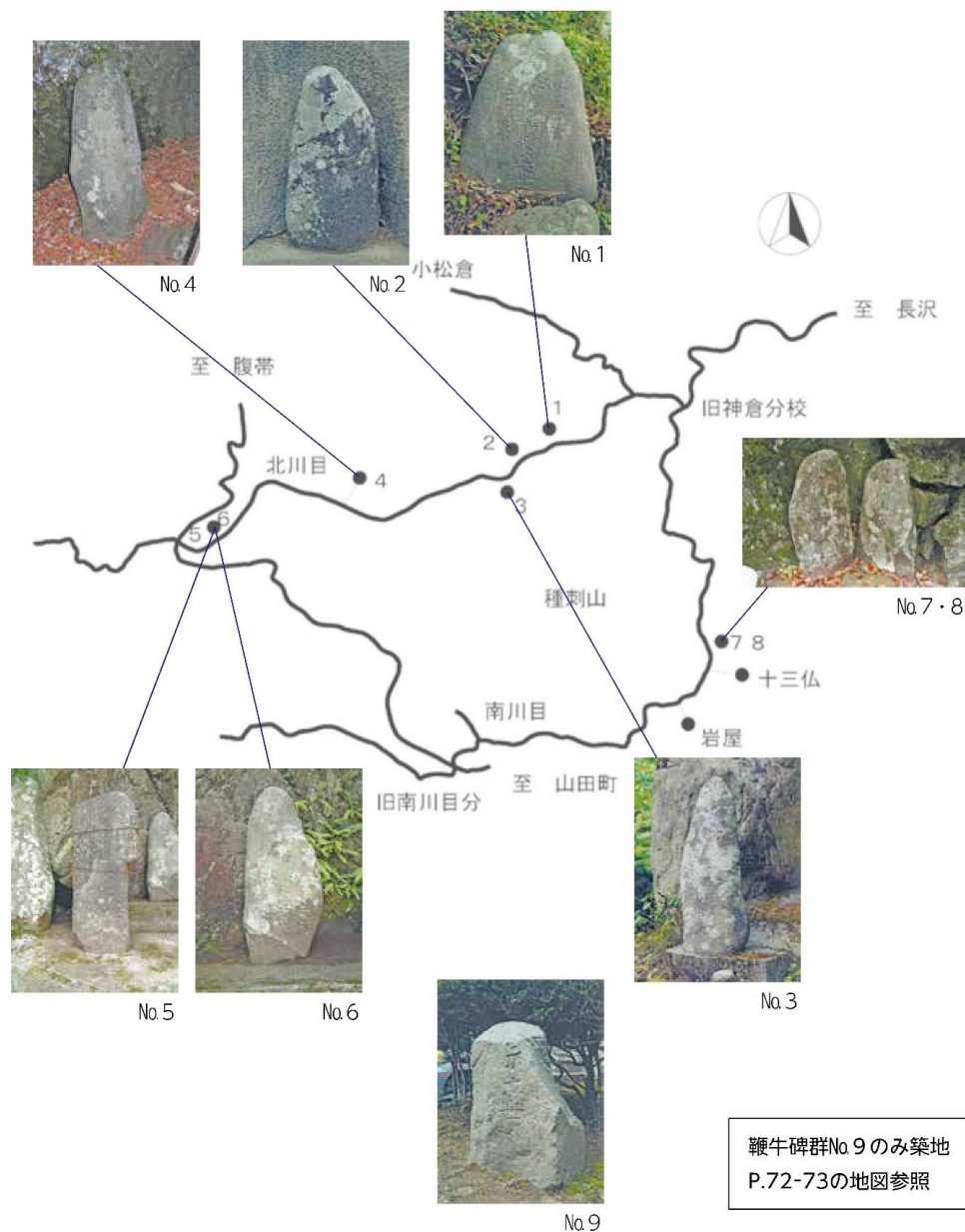


べんぎゅうひぐん
鞭牛碑群



鞭牛碑No.1



鞭牛碑No.2



鞭牛碑No.3



鞭牛碑No.4



鞭牛碑No.5



鞭牛碑No.6



鞭牛碑No.7



鞭牛碑No.8



鞭牛碑No.9

- ◇ 指定日 平成3年7月25日
- ◇ 所在地 長沢・築地
- ◇ 所有者 個人、NTT東日本

新里地域和井内に生まれた牧庵鞭牛和尚(1710~1782年)は、^{おおづちどおり}大槌通橋野村(現釜石市)^{りんそう}林宗寺の住職を隠居後、閉伊地方の道路開削に生涯を捧げました。

鞭牛が人々のために開削した道や橋には、「道供養橋野村林宗六世」などと銘文が刻まれた石碑が建立され、長沢の南川目地区・北川目地区には8基・築地に1基の鞭牛碑が残されています。

長沢川上流の地域は、山田町豊間根から宮古街道(宮古~盛岡城下)沿いの腹帯を結ぶ交通の要所でしたが、山深く難所も多いために鞭牛が集中的に道路開削や架橋に取り組んだ地域でした。当時は普請^{ふしん}と言って、道や橋は多くの人々が協力して工事するものでした。

供養碑を建立し、道や橋が永久に破損することなく安全に通行できることを願った、鞭牛と人々の思いが偲べれます。